

1-1で、3対戦目となった。試合をするのは、TさんでもOさんでもない、普通のペアである。力的には相手の方が上であることを認めざるを得ない状況である。私は天を仰いだ。ここまでか。あとは、伸び伸びやってくれ。試合中でもあるにもかかわらず、今までの自分を反省することにした。何が足りなかったのか。もっとできなかったのか。

試合が始まった。「あれっ」こちらがリードした。すばらしい。大したもんだ。私の目は涙で潤んでいた。最高の試合だ。リードが広がっていく。そして、勝った。こういった試合は、一気に勝ち切ることである。テニスコートの神様が味方してくれた。今まで地道に練習してきた普通の選手たちへのプレゼントだった。

私は、自分たちが納得できるいい試合をしてくれれば、それでよいと、半ばあきらめていたにもかかわらず、選手たちは、まったくあきらめていなかったのである。勝負は、やってみないとわからない。今まで何度も負けてきた選手たちが、最後の最後に勝った。私は、よく「99回負けてもいい。100試合目に勝てばいい。それが中体連だ」などと言っていた。本当にそうだった。

そのまま勝ち上がり、私の計算通りに決勝まで来た。このまま優勝かと意気込んだが、そう甘くはなかった。個人戦でも決勝まで戦っているT Oペアは体力的にもきつかった。チームは力尽きた。それでも、立派な準優勝であり、県大会出場である。3か月前までは、とても考えられなかった展開である。TさんとOさんの力だけで勝ち得た結果ではないことは明らかだった。

県北大会が終わり、7月の県大会まで1か月はある。ここからが、T Oペアにとっては重要な期間である。TさんもOさんも、県大会の個人戦に照準を合わせているのは明らかだった。そのために、同じ学校にきたのである。私も、ここからは戦術的なアドバイスもするようになった。いろいろな大会や練習試合を通して、T Oペアのライバルたちのことがわかってきたからである。

県大会前に、その前哨戦ともいべき大会があった。T Oペアの腕試しである。結果は、決勝まではいかに負けた。その負けた試合の内容がよくなかった。Oさんがやりづらそうだった。苦手意識でもあるのだろうかと思った。

県大会の組合せが決まった。女子個人戦を見ると、前哨戦で負けた相手とまた対戦する組合せだった。嫌な感じがした。ストーリー的には、雪辱を果たして勝ち上がり、東北大会出場なのだが、そううまくいくかはわからない。

いよいよ県大会を迎えた。団体戦は善戦したが、力及ばず敗退した。しかし、T Oペア以外の選手たちが、憧れの県大会の舞台を経験できたことは大きかった。

さて、女子個人戦である。予定通り、この前負けたペアとの再戦となった。結果は、T Oペアの力を発揮することなく、また負けた。相手が強くて負けたのではなく、こちらが力を出すことができなかった。後でわかったのだが、Oさんの精神状態が試合に臨めるようなものではなかったようである。試合前に、Oさんとじっくり話ができていれば、また違った展開になっていたのかもしれない。T Oペアの夏が終わった。

(次号に続く)